

図書館情報メディア研究科



どんな分野の人にもお薦めできる内容です。

「困ります、ファインマンさん」

リチャード・P.ファインマン著、大貫昌子訳
岩波書店 1988.7 [中央.図情 289-F23]

鳥について知ろうとする時、その鳥の名前を何カ国語で覚えたとしても、結局何も知ったことにはならない。だから鳥が何をしているのかを実際によく見てみよう、というのはファインマン氏のお父様の教えです。1965年のノーベル物理学賞の原点がこんなところにあったのかという小さな驚きと共に、ファインマン氏のユーモアのセンス、絵画の才能にまで触れられ、どんな分野の人にもお薦めできる内容です。本書の前に出版された「ご冗談でしょう、ファインマンさん」と合わせて読んだ後に、「筑波大学ギャラリー」に展示されているファインマン氏直筆の色紙を見に行けば、きっと感慨もひとしおでしょう。



人間総合科学研究科(感性)

もの作りに携わるすべての人に手に取ってほしい本です。

素材とデザインの教科書

日経デザイン編 日経BP社 2010.4 [体芸 501.83-N73]

樹脂や金属、木、紙、セラミックなど多様な素材の基礎知識をやさしく解説しています。実際、素材をどのように活用しているかを様々な製品を例にし、分かりやすく写真と一緒に説明しています。ソニー、キヤノン、パナソニックなど、日本を代表するメーカーから色々な有名なデジタルカメラのボディの金属を比較したり、加工技術をイラストで説明したり、面白い内容がたくさんあります。



人文社会科学研究科

TSUDA

原文(英語)の緻密な理解と訳語(日本語)の細部へのこだわりが、随所に見られます。初めて読んだとき、こんな風に的確な言葉を選べるようになりたいと思ったのを覚えています。

翻訳夜話

(文春新書 ; 129)
村上春樹、田元幸著
文藝春秋 2000.10
[図情 801.7-Mu43]

アメリカ文学者で、翻訳家でもある柴田先生が東京大学で行った英日翻訳の講義を、実況中継のように対話形式で記録した本です。原文をまず自分で訳してみても、読みながら自分で添削していくのも面白いですが、ページを行ったり来たりするのでちょっと大変です。柴田先生のお友達である作家の村上春樹さんが登場するところもあります。ちなみに、柴田先生が翻訳したレベッカ・ブラウン『若かった日々』もおすすめです。



システム情報工学研究科

KOBAYASHI

C言語を勉強したての初心者におすすめの参考書です。

やさしいC

高橋麻奈著 ソフトバンククリエイティブ 2007.9
[中央 図情 007.64-Ta33]

プログラミング言語は、最近では情報分野の人に限らず、さまざまな分野の人も授業でその基礎を学んだりすることが多いと思います。私は初めてプログラミング言語を学び始めたときは、授業の内容についていけず、プログラミング言語に対して壁を作っていました。しかし、この本は図などで分かりやすく、簡単に説明してくれているのが特徴で、初めての人にとってはすごく取っ付きやすくなる本だと思います。この「やさしい」シリーズはCだけでなく、Java、C++、XML等さまざまな言語があるので、何か初めて挑戦しようと思っている方、ぜひ読んでみてください。

ラーニング・アドバイザーお薦めの1冊



生命環境科学研究科

TSUBOYAMA

人文・社会科学系の、物理学が嫌いな学生が集まる講義で話そうと思ったことをグラシヨウ教授が書いた一冊。

素粒子物理に未来はあるか : グラシヨウ教授が語る

シェルダン・L.グラシヨウ著
本間三郎訳 丸善 1994.7
[中央 429.6-G48]

素粒子物理学は自然界の現象を全て説明できる一つの理論を見つけた、らしい。自然界にはなぜ4種類の強い力、弱い力、電磁力、重力しか存在しないのか、素粒子ってそもそもなんなのか。基本の説明はわかってても計算式は見たくない、そんなスタンスで読んでも素粒子物理ってそんなのか、となんとなく納得できる本。寒くなるこの時期、カフェでまったりしながら、家でぬくぬくしながらのんびり読んでみるのはどうですか？



人間総合科学研究科(芸術)

FUKUDA

芸術の秋、普段はアートに触れていないあなたもこれを読めば美術館に行ってみたくなくなるはず！

絵画の「進化論」 : 写真の登場と絵画の変容

小田茂一著 青弓社 2008.2
[体芸 723.05-017]

《写真の誕生は絵画に大きな変化をもたらし、それ以降、絵画は独自の表現の可能性を探求し続けてきた。多様な作家と作品を検討することによって変容の軌跡をたどり、絵画が今後どこへ向かうのかを浮かび上がらせる。》
「BOOK データベース」より

絵はなんとなく興味があるけど詳しくは…。写真があるのになぜ人は絵を描くの？なんでピカソがすごいのか？そんな素朴な疑問に答えてくれる一冊です。

数理物質科学研究科



SHIMAOKA

第一線の研究者が解き明かす『光』を使った最新技術のメカニズムを紹介した本です。

光化学の驚異 : 日本がリードする「次世代技術」の最前線

(ブルーボックス ; B-1527) 光化学協会編 講談社 2006.8
[中央 408-B94-1527]

太陽光と酸化チタンでNOxをクリーンに除去、光で『極小分子モーター』を駆動、ホログラフィーで超高速・高密度記録、光ピンセットで分子ひとつを操作など、光化学の驚異的な研究の成果を分かりやすく解説してあります。専門的な用語をほとんど使わず、わかりやすい表現で書いてあるので、科学に興味はあるけど、難しくよくわからないという方も、ぜひこの本を読んで下さい。



教育研究科

TAKEDA

体専OBの朝日新聞社記者が書いた本です!!

ケニア! 彼らはなぜ速いのか

忠鉢信一著 文藝春秋 2008.8 [体芸 782.3-C68]

マラソン界で勢いを増すケニア人選手。有望な人材をどのように発掘し、育成して表舞台に立たせるのか。テレビ上の活躍の裏にある現実を、関係者への取材をもとにまとめた傑作です!! 「黒人は速い」と言う人は多いですが、『何故速いのか』を考えたことはありますか？表面上の情報を鵜呑みにするだけでなく、その裏にある事実も知ってもらいたいです。



2011/11/28 発行